

福井の幕末明治 歴史秘話

<第19号>

平成28年10月17日発行

せご 西郷どんと交流を深めた幕末明治の福井の先人達 ～村田氏寿編～

平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公西郷隆盛。西郷と福井の先人達との関わりを取り上げる特集の第3回は、村田氏寿（むらたうじひさ）との関わりです。



村田氏寿は、福井藩主松平春嶽に側近として仕えた人物で、廃藩置県後の初代の福井県知事を務めたほか、明治新政府では、日本の行政警察を創設したことで知られる人物です。

村田と西郷隆盛、二人のエピソードは、西郷が書いた書簡に残されています。安政4年（1857年）3月、村田（当時37歳）は、藩主春嶽の命を受け、熊本の著名な政治学者、横井小楠（しょうなん）の招聘のため、熊本に向け福井を立ちました。その際、村田は春嶽から薩摩藩主島津斉彬あての手紙を預かっており、熊本から鹿児島まで足を延ばします。将軍の後継者問題を通して春嶽と盟友であった島津斉彬は、参勤交代で薩摩に帰国していました。

村田氏寿

村田は鹿児島到着後、斉彬への拝謁を希望しますが、その願いはなかなか叶いません。そんな中、閏5月2日夕刻、村田は西郷と初めて対面します。親しく歓談したその翌日、西郷は村田に次のような書簡を送ります。「昨夕の宴席では、ご高話を承り、まことに清々しい気持ちでした。初めてお会いしたのに、ますます（私が）心事を打ち明けてしまい、かえって卒爾（そつじ）の至りと思っております。何とぞご容赦ください。さて、承知している件、今日はお達しがあるでしょう。我が主君（斉彬）が多忙でこのようになったので、（お会いしないのは）何らかのお罪です。ご糾問を伏して願うところです。……」。この手紙によると西郷と村田は初対面ながら打ち解け、話がはずんだようです。また、その際、軽率な言動があったのではと反省の弁も述べています。

西郷は、同時に斉彬側近の市来正之丞にも書簡を送り、村田が拝謁を急いでいるので、関係者に話を通してほしいと頼んでいました。村田と歓談するのと同時に、斉彬への拝謁実現のために手を尽くしていた事実から、西郷の、微に入り細を穿った性格の一端を知ることができます。

その後、村田は、西郷の盟友で、後に敵対した大久保利通の下で新政府の内務大丞兼警保頭（ないむだいじょうけんけいほかしら（現在の警視総監））となり、全国に広がる警察網の整備や指導監督に当たりました。この頃、大久保と極めて親しく、よく碁をしたという逸話も残っています。村田は、明治9年（1876年）から、続発した不平士族の反乱（秋月の乱等）の鎮圧に当たりますが、翌年1月、一切の公職を離れます。その後、最大規模の士族反乱、西南戦争が起きます。村田は、これを鎮める立場で西郷と戦場で対峙することはありませんでしたが、西郷死すの報に触れ、20年前の歓談の時を思い出したかもしれません。

<参考資料> 村田氏寿（巳三郎）伝

～幕末ふくい歴史紀行～ [福井県立図書館]

・福井藩政資料などを多く所蔵する福井県立図書館（松平文庫）。村田氏寿が執筆した『続再夢紀事』（ぞくさいむきじ）も所蔵されています。春嶽の政事総裁職就任と辞任、四侯会議、大政奉還直前の駆け引きなどが記載された重要な歴史書（全22巻）も村田の功績の一つです。

【住所】福井市下馬町51-11（JR福井駅東口からフレンドリーバス県立図書館行乗車）



続再夢紀事

★お知らせ 連続講座「東京府で活躍した福井人」(全4回)を開催！

- ・明治大学駿河台キャンパスで、11/26(土)、12/3(土)、12/10(土)、12/17(土)に開催(13:00～14:30)
- ・第1回(11/26)は、「日本の行政警察の創設者 村田氏寿」。公益財団法人輔仁会理事長の藤田道男氏が講演。開明派の藩主とともに改革にあたり、西郷や龍馬にも信頼された村田のその人柄と功績に迫ります！

【住所】東京都千代田区神田駿河台1-1(TEL 03-3296-4423) JR「御茶ノ水駅」徒歩3分

(発行者)福井県 (問合せ先)福井県観光営業部ブランド営業課 萩原、前田 ☎ 0776-20-0762